

お茶の水女子大学における女性と経済学

松平友子・伊藤秋子・御船美智子

『日本における女性と経済学』合評会へ「生活への視点」と「生活者の視点」

上村協子（東京家政学院大学）

1. 受け継がれた松平友子著作本が語ること

東京家政学院には、創立者大江スミをはじめ、東京女子高等師範学校・お茶の水女子大学の関係者が多い。最後の「東京女子高等師範学校家政科主任」であり、「お茶の水女子大学理家政学部 家政学科主任」を勤めた松平友子が、東京家政学院大学を退職して教壇を離れる際に亀高京子が受け継いだ松平友子『家事経済学』初版本、『高等教育 家事経済教科書』など 13 冊を上村が所蔵している。（本日、上村所蔵の松平著作を公開）

2. 日本初の女性経済学者 松平友子

2008 年 7 月 11 日 14:54、国際ジェンダー学会の原ひろ子先生経由で、村松安子先生からお尋ねのメールが届いた。愛媛大学松野尾先生の日本経済思想史を受講した学生の質問「戦前の日本に女性の経済学者はいなかったのですか？」についてのお問い合わせであった。上村は即座に次のように返信した。

「松平友子」という人物があてはまると私は思います。「日本家政学会」の初代副会長であり、第 2 代会長が松平友子です。

2009 年 6 月 1 日、東京家政学院大学の町田キャンパス、第 4 会議室において、天野正子学長同席のもと、村松安子・栗田啓子・松野尾裕 3 名の先生に松平著作を見ていただいた。それが、『日本における女性と経済学』第 4 章 松野尾裕「松平友子の家事経済学」で日本初の女性経済学者が松平友子であると示されることにつながった。村松安子先生をはじめ、松平友子に注目された編著者の 3 名の先生方には、記して心からの御礼を申し上げたい。

3. 松平友子・伊藤秋子・御船美智子 家庭生活の経済的研究の系譜

2005 年 10 月 29 日 お茶の水女子大学 創立 130 周年記念事業、生活科学部のゆくえ～家政学から生活科学へ～が開催され、「家政学部成立の歴史」を上村が話す機会を得た際にもこれらの松平著作などを持参した。当時の東京家政学院大学学長利谷信義先生、亀高京子先生ご出席。手書きの松平の家族経済と国民経済の循環の図に描かれた貯蓄の流れに注目していた。（120 頁 図 5-1 図 5- 2 134 頁注 2 参照）

2005 年 10 月の会に持参した松平著作を見て、御船氏が「私たちのルーツ」と発した言葉が耳に残っていた。松平は戦時下心血を注いで東京女子高等師範学校の授業のテキスト『高等教育 家事経済学教科書』改訂した。女性が教壇にたち女子学生が経済学を学ぶということ。東京女子高等師範学校の教育内容は、学ん

だ学生が教育の現場で経済を教え、学校教育の現場を通じて生徒の日常の家計管理力・生活設計力につながる。本書第5章オルタナティブな「生活者の経済学」執筆時に同時進行で2009年に逝去された御船美智子論文集刊行委員会で御船美智子氏の著作を整理していた。(134頁 注5参照)教育政策の影響をうける一方で経済社会に影響力をもつ教育・研究の現場にいるものの使命感が御船に受け継がれていた。松平友子・伊藤秋子・御船美智子の系譜を位置づけた意図である。

松平友子 著 お茶の水女子大学における女性と経済学を考える 13冊の資料 (上村協子 所蔵)

①	家事経済学	上巻	大正 14 年 4 月 23 日	初版	父様 母様 正寿様 記入あり
②	家事経済学	下巻	大正 14 年 4 月 23 日	初版	
③	家事経済学	上巻	大正 14 年 5 月 1 日		
④	家事経済学	下巻	大正 14 年 11 月 8 日		159 ページに大正 15 年 12 月 21 日 試験問題
⑤	高等教育家事経済教科書	上巻家事経済	昭和 9 年 12 月 28 日		再訂版原稿
⑥	高等教育家事経済教科書	上巻	昭和 11 年 4 月 17 日	第 2 版	書入れ用 友
⑦	高等教育家事経済教科書	上巻	昭和 16 年 6 月 25 日	第 4 版	受講学生 小針富美恵
⑧	高等教育家事経済教科書	下巻	昭和 15 年 1 月 20 日	第 5 版	受講学生 小針富美恵
⑨	高等教育家事経済教科書	上巻	昭和 18 年 5 月 25 日	第 6 版	受講学生 大浦 (亀高) 京子
⑩	高等教育家事経済教科書	下巻	昭和 18 年 5 月 25 日	第 6 版	受講学生 大浦 (亀高) 京子
⑪	高等教育家事経済教科書	上巻	昭和 17 年 3 月 30 日	再訂第 5 版	手書き図あり 7 ページ
⑫	家族経済学 提要		昭和 23 年 6 月 10 日		図あり 23 ページ 亀高先生使用?
⑬	家庭経済研究		昭和 41 年 5 月 1 日	増補三訂版	

4. 天野正子「生活への視点」と「生活者の視点」

女性と経済学、第5章の原稿は、出版社に入稿をする直前に、2015年1月5日自宅療養中の天野正子氏に見ていただいた。第2節・第3節のタイトルに関してアドバイスを頂けた。生活の視点、生活者の視点に関し、天野正子氏の著作・発言に多くの示唆を得ている。

(2015年国際ジェンダー学会 ラウンドテーブル資料参照)

【天野正子からの示唆 その1】生活者視点の5つのリカレント社会

2012年11月7日生活文化ESCの特別公開研究会において、天野は、『生活者』概念の系譜に～戦時体制期から21世紀～と題する講演を行い、バブル経済の崩壊から新世紀に至る現代は生活者が自らの求める社会像を自ら提示する時代であると位置付けた。公開研究会のまとめで、天野はリカレント (recurrent) をキーワードに、生活者が求める社会像とは「サブシステム」を基軸とする社会であるとしリカレント (循環) 型社会 5 類型①ライフサイクルリカレント型②食が結ぶ都市と農業の共生型③環境循環型④福祉循環型⑤男

女共同参画型を提示した。

表 生活者が求めるリカレント（循環）型社会像（作成天野正子）

	ライフサイクル リカレント型	食が結ぶ都市と農業 との共生型	環境循環型	福祉循環型	男女共同参画型
背景	生涯時間の延長	地域性（ローカル性） の破壊	資源の有限性	低出生率	女性の権利と参画
循環性のコンセプト	「労働－教育－家庭－社 会活動」	「台所－土壌－安全な 食－台所」	「自然－人間」	世代間	「ペイドーアンペイ ドワーク」間
規範 or 倫理	選択の自己決定	連携、安全性	環境倫理	世代間公正	パートナーシップ
価値：	経済の量的拡大を基本的価値ないし目標としない社会				
方向性：	経済の「成長」から「サブシステム」を基軸とする社会へ				

科学研究費特別公開研究会 2012 年 11 月 7 日 天野正子「生活者」概念の系譜 ～戦時体制期から 21 世紀～
生活文化 ESC（生活文化の世代間伝承による持続可能な消費）研究 代表上村協子 平成 24 年度報告書 89 頁

【天野正子からの示唆 その2 試論「現代生活学」】

特別公開研究会の 10 か月後、社会学者としてまた東京家政学院大学学長として天野は【試論：「家政学」
から「生活科学」へ、そして「現代生活学」へ】と題し次のような『現代生活学の定義』を提示した。

『現代生活学とは、生命の維持、生活の質を重視する生活者の視点から、人間生活における、個々人の日
常的行為と生活の諸条件（社会・環境・歴史的条件）の相互作用について、自然・社会・人文の諸科学を基
盤として研究し、持続可能な生活の創造に貢献する実践的総合科学である。』（2013 年 9 月 5 日）（天野正子
2013 試論 現代生活学 「家政学」から「生活科学」そして「現代生活学」へ）天野の現代生活学定義は、
生活文化 ESC（生活文化の世代間伝承による持続可能な消費）研究 代表上村協子 平成 26 年度報告書 8 頁
掲載後、『日本における女性と経済学』北海道大学出版会の 136 頁～ 137 頁に記載。

【天野正子からの示唆 その3 現代生活学の認識主体と認識対象】

2015 年 3 月 14 日に大学内で開催されたセミナー寄せて天野はつぎのようにコメントをする。生活を理解
し分析しようとするものが、同時に生活を営んでいる当事者でもある。生活学においては、認識主体が同時
に認識対象であり、自らが生活を営むことによって、主体の位置や認識内容が異なってくる。生活の営みの
側から社会の状況を展望する試みである。それまでの人間の行為や集団、文化などの明示的な分析によって
生活への接近を図ってきた方法とは違う。重要なのは、生活認識が単なる生活状況の把握にとどまらず、生
活問題の把握としての性格を帯びていることである。

残された課題 壮大な社会実験

理論・実証・実践をつなぐ金融リテラシー 女性と財産研究への注目

天野の現代生活学定義をみていくうちに、松平友子の『家事経済学』には、家事会計（家計簿記帳）による、
壮大な社会実験、「理論・実証・実践」が仕掛けられていたのではないかとの想いがインスピレーションとし
て浮かんだ。すなわち、家計簿記帳により、記帳者自身が自らの生活と経済社会の関係を理論的に捉え、金
融を含む生活選択を主体的に行うことの影響を実証し、さらには社会を変え、自らを変えるという実践につ

ながら壮大な生活主体形成の社会実験が松平の『家事経済学下巻』の家事會計と貯蓄論には仕込まれていたのではないかという仮説である。

仮に、お茶の水女子大学における隠された理論・実証・実践の仕組みを松平友子が仕掛けていたとしたら、その仕掛けは日本人の家計管理・生活設計（金融リテラシー）にどのような結果をもたらしたのか。2015年4月3日亀高京子先生ご逝去。2015年5月1日天野正子先生ご逝去。東京家政学院大学家政学部は最後の卒業生を送り亀高先生ご逝去の3日前の平成27年（2015年）3月31日52年の幕を閉じた。区切りをつけて検証し、新たな仕掛けをする時期ともいえる。日本における金融経済教育と女性と財産研究を関連付け、松平友子から遺された『家事経済学』『家事経済学教科書』『家族経済提要』とあわせてどのように社会実験の結果を検証できるか考えていくことを今後の課題としたい。